



SESERAGI—MISHIMA ROTARY CLUB WEEKLY REPORT

クラブ
週報

2020～2021年度 RI会長 ホルガー・クナーケ
RIテーマ ローターは機会の扉を開く

クラブテーマ「思いはひとつ」

会長 加藤正幸

副会長 米山晴敏 幹事 服部光弥

第1473回例会

2021.4.23(金)晴

司会 大庭靖貴君

ロータリーソング「それでこそロータリー」

事務所 三島市中央町4-9 小野住環中央町ビル2F
TEL.055-976-6351 FAX.055-976-6352

<http://www.seseragi-mishima-rc.gr.jp>

せせらぎ三島ロータリークラブ

検索

例会場 呉竹

TEL.055-975-3210

毎週金曜日 第1・第3 夜間例会

会長挨拶

会長 加藤正幸君



長友ガバナー補佐・事務局原田様、お越しくださしまして有難うございます。コロナの関係で予定通り進まず大変だと思っておりますが、引き続きお世話宜しくお願い致します。

話は変わりますが、先週は松山英樹選手マスター優勝の話をしました。今日は池江璃花子選手の話の少しさせていただきます。

皆も知っていると思いますが、2019年2月に白血病である事を公表し過酷な闘病生活に入りました。発病から今日までの苦難の道のりを振り返り、あらためて思う。国内外のメディアに「奇跡」と言わしめる復活劇をもたらしたのは、なんだったのか。

「すごい辛いこともあります。でも幸せだなんて思うことも沢山あって、水泳があるからこそ、自分がいるんじゃないかと感じるんです」

「泳ぐことが好き。水泳は自分と切っても切り離せない。自分であるために戻らなければ行けない場所がプールであり、レースだ。」と話しています。

その一心が、多くの人々が胸を打たれた復活劇をもたらしたのだと思います。

池江選手のさらなる復調、いや進化が楽しみです。東京オリンピック出場おめでとうございます。

日本人のスポーツ選手が最近活躍がすごいですね。

テニスでは大坂なおみ選手・男子ゴルフでは先週話しました松山英樹選手・アメリカメジャー野球では大谷翔平選手、先日日米合わせて100本塁打打ちましたね。テニスでは錦織圭選手がバルセロナオープンにて昨日ナダル選手と最終セットで負けましたが頑張ってくれました。

引き続き日本選手の活躍を期待します。

ようこそせせらぎ三島
ロータリークラブへ

長友範充ガバナー補佐(伊豆中央RC)
原田精治G補佐事務局(伊豆中央RC)

出席報告

	出席総数	出席率	マークアップ	修正出席率
前々回	20/30	66.67%	21/30	70.00%
今回	21/31	70.00%	会員総数	33名

欠席者

あなたが見えなくて残念でした。

石井(司)君、遠藤君、大村君、篠木君、土屋君、中本君、服部君、宮澤君、山口(雅)君、渡邊君

(*出席免除会員の欠席者 片野君、中村君、山本君)

おめでとう

入会記念日 4月20日 岡 良森君

幹事報告

幹事 服部光弥君

①5月例会は予定通り開催いたします。

②次回5月7日の例会は「地区協議会報告」となります。

日曜にWEB開催となりますので対象の方は視聴よろしくお祈りいたします。

ROTARY NEWS

ロータリーは長年、何千もの環境保護プロジェクトを実施してきました。過去5年間だけでも、環境保護プロジェクトに費やした資金は1800万ドル(19億円以上)。ロータリーの重点分野に新たに「環境」が加わったことで、環境問題に取り組む機会がさらに増すこととなります。

以下にロータリー会員による環境への取り組みをいくつかご紹介します。

ブラジル

ブラジルのカンポ・モウランでは、ごみのリサイクル率はわずか5%でした。地元のリサイクル施設の設備は十分ではなく、ベルトコンベアがないため従業員が手でごみの仕分けをするしかありませんでした。旧式の圧縮機は能率が悪く、圧縮梱包のサイズは地元標準を下回っていました。

そこで、地元カンポ・モウラン・ロータリークラブと米国のワルロック・ロータリークラブが、リサイクル協同組合と協力し、施設でのごみの仕分けと加工能力を高める補助金プロジェクトを開始。従業員の安全と効率を高めるための設備を購入したほか、経済と環境の両面について従業員に研修を実施しました。このプロジェクトにより、以前よりも月に2.63トンも多量なごみの仕分けができるようになり、従業員の月収も約25パーセント増えました。

『Rotary』誌2021年3月号より

スイス

毎年、800万トン以上のプラスチックごみが海に流れ出します。携帯電話の部品を飲み込んで死ぬ海鳥や、プラスチック袋をクラゲと間違えるウミガメ、プラスチック片をプランクトンと間違える魚が後を絶たず、その結果、これらの魚を介してマイクロプラスチックが人間の食物に入り込む原因となっています。

これを受け、スイスのロータリー会員が「Mare Nostrum - End Plastic Soup」というグループを立ち上げ、水路からプラスチックごみを除去する取り組みを開始。年に数回、ボランティアが川や湖の清掃をしています。このグループはまた、プラスチックごみの適切な処分方法を企業に教えるキャンペーンも行っています。

アルレスハイム・ロータリークラブ会員で、グループの共同会長でもあるマリー・ジョセ・スタッフ・テイズさんは、次のように話します。「川や湖、海を守ることは、大規模で世界的な取り組みです。水は生活に欠かせない一部ですから」

『Rotary Suisse』誌より

ケニア

ケニア東部の人里離れた村(NdandiniとKyaithani)では、一世帯の生活費が日に1ドル未満であり、家に電気がありません。多くの家庭は照明用の灯油を買うお金がなく、子どもたちは夜に宿題をすることができません。ほかのプロジェクトの際にこの問題を知ったサンシャイン・コースト・シーシェル・ロータリークラブ(カナダ)とマチャコス・ロータリークラブ(ケニア)は、2014年、環境にやさしい太陽光発電を家庭と学校に導入するプロジェクトを開始しました。

このプロジェクトでは、地元の学校に通う約1,500人の生徒に、購入権つきレンタルの太陽光ライトを提供。生徒たちは8カ月間、月1ドル(灯油コストよりも安価)のレンタル料を支払い、その後はライトを所有します。レンタルの収益は、将来にほかの生徒に提供する太陽光ライトの購入資金となります。プロジェクトの協力団体であるKenya Connectによると、太陽光ライトのおかげで生徒たちの読書時間が3倍になり、村々での教育の質が飛躍的に改善されます。

プロジェクトではさらに、二つの学校にパソコン室もつくり、その電力を供給するための太陽光システムを設置。200人以上の教師がパソコン教育に関する研修を受けました。

『Rotary』誌2021年3月号より

インド

アウランガーバード(インド)近くの二つの村の人びとは、井戸水を使って生活しています。しかし、毎年、雨季の数カ月後には井戸が枯れてしまい、村人は離れたところまで水汲みに行くか、水を買わなくてはならず、多くの人は水を買うお金がありません。

このため、アウランガーバード・イースト・ロータリークラブと、オーストラリアのチェストウッド・ローズビル・ロータリークラブは、「砂防ダム」というシンプルで伝統的な技術を採用。あちこちの溝に小さなダムをつくり、豪雨による雨水の量をコントロールすることで、浸食が減り、地面に浸透する水の量が増えることとなります。この目的のために、国内20万カ所以上に砂防ダムがつけられています。

『Rotary』誌2021年3月号より



スマイルボックス

山口辰哉君:リハビリをと思い会社から歩いてきました。息があがって苦しいです。帰り、だれか乗せてってください。

藤川智徳君:今日の良き日にスマイルします!

